

「質問事項」へのご回答

① シミュレーションでは、（案 1）想定トラフィック比と（案 2）ポート比の 2 案で検討していたが、それぞれのメリット・デメリットはどう考えればよいのか。

A. 以下のとおりと考えております。

・ 想定トラフィック比

（メリット） ・ 各サービス・機能毎の使用量に近い費用配賦が可能な方法。

（デメリット） ・ 想定トラフィックを推計するための帰納物数は大胆な推計によらざるを得ず、精度の高いサービス別のトラフィックを想定するためには十分な実績の蓄積が必要。

- ・ ベストエフォートの使用帯域や各サービスの同時接続率は、ユーザ数が少ない段階で推計することは極めて困難。
- ・ チャンネル数やチャンネルあたりの使用帯域はコンテンツプロバイダ側のサービス戦略等により左右されるものであり、今後大きく変動。

・ また、今後新たなサービスの提供によって、サービス間の想定トラフィック比は大きく変動。

・ ポート容量比

（メリット） ・ サービス別費用の把握が不要であり、想定トラフィックの推計などを行わなくてよい比較的簡便な方法。

（デメリット） ・ サービス別費用を把握するためには、別のコストドライバの検討が必要。

② また、シミュレーションでは、（案 1）想定トラフィック比について、更に 3 案を検討しているが、それぞれのメリット・デメリットはどう考えればよいのか。

A. 映像配信事業者の負担に着目すると、案 1 はエンドユーザ側との折半でネットワーク費用の半額を負担するため映像配信事業者の負担費用が大きくなるのに対し、案 2 及び案 3 ではエンドユーザ側がネットワーク費用の全額を負担することから映像配信事業者の負担費用が小さくなるという特徴があります。

また、中継局接続機能は、当社としてはビル&キープとすることが適当と考えますが、仮に事業者間で接続料を払い合うとした場合の中継局接続事業者の負担に着目すると、中継局接続事業者がネットワーク費用の全額を負担する案 3 が接続事業者の負担費用が最も大きく、次に、エンドユーザ側との折半でネットワーク費用の半額を負担する案 1 が大きく、エンドユーザ側がネットワーク費用の全額を負担する案 2 が最も小さくなるという特徴があります。

こうした点を踏まえ、サービス別コストとアンバンドル機能の帰属関係について、検討中です。

③ シミュレーションでは、QoSが考慮されていなかったが、1) QoSの有無、2) QoSの程度（最優先・高優先）について、それぞれどのように考えるのか。

A. QoS通信とベストエフォート通信との間、及びQoS通信の最優先クラスと高優先クラスとの間についてはそれぞれ効用差があり、費用に差を設ける具体的な方法について引き続き検討が必要と考えております。

④シミュレーションは、伝送路を共用するサービスのうち、イーサネットサービスを考慮せずに行っていた。伝送路のコストをイーサネットサービスに配賦する上でのコストドライバについてどのように考えているのか。

A. 伝送路を「NGNイーサ」と「NGNイーサ以外のNGN」で共用する場合には、回線数比により分計する考えです。

(以上)